

2020年10月24日

直腸癌術後の排尿障害と術前排尿機能評価の臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 外科 医長 高津有紀子

研究協力者:皮膚排泄ケア認定看護師(WOC ナース) 野村主弥

1. 研究背景 ;

直腸癌の手術は排尿に関連する神経の近くの操作を伴うため、術後に排尿障害が生じる可能性があります。しかし、前立腺肥大症・糖尿病などの排尿障害を来しうる併存疾患がある患者さんについては、術前から排尿障害を生じている可能性があります、直腸癌手術による排尿障害を正確に把握できていないという問題があります。

2. 研究目的・意義

本研究では、直腸癌の患者さん全例に対して、術前から排尿ケアを実施し、術前と術後の残尿測定を行うことで、排尿障害の診断と原因について明確にし、患者さんにとって適切な治療法を選択することを目的としています。

3.対象症例

直腸癌の手術を受ける患者さんが対象になります。

4.研究期間

2020年10月～2022年3月(症例数や状況に応じて適宜延長します)

5.研究方法

・直腸癌の手術前日に超音波膀胱容量持続測定装置(リリアム)を用いて、排尿後の残尿測定を行います。測定は朝・昼・寝る前の計3回行います。

・術前日と術後(退院後初外来時)に主要症状質問票(Core Lower Urinary Tract Symptom Score: CLSS)に回答していただきます。

・術後は従来どおりにフォーレ抜去後から排尿ケアを行います。

6.個人情報の保護

参加者のデータ管理及び取り扱いについては、個人情報の保護について厳重に管理いたします。

7.研究実施計画書の変更、改訂

研究実施計画書の変更や改訂があった際は、適宜当欄に追記していきます。

8.研究実施体制

研究責任医師;高津有紀子

研究協力者:皮膚排泄ケア認定看護師(WOC ナース) 野村主弥

お問い合わせ:022-365-5175 高津有紀子